

(調査様式1)

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日

平成23年12月1日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第4670102823号
法人名	社会福祉法人恩賜財団済生会支部 鹿児島県済生会
事業所名	グループホーム武岡五丁目
所在地	鹿児島市武岡5丁目16-23 (電話) 099-282-6081
自己評価作成日	平成23年12月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

武岡団地の中心に位置し、近隣の病院、学校、郵便局、金融機関やスーパーマーケットなど商店が立ち並ぶ人通りの多い賑やかな幹線にあります。周りに閑静な住宅外も広がり生活の場として退屈しない毎日が過ごせます。近隣には沢山の公園があります。毎日の散歩で体力作りが出来、庭先の花、木を眺め季節を感じながら地域の方とも馴染みの交流がもてます。または、季節ごとに外出や外食など行い社会性が保てるように努めています。私たちは全職員が「ここで生活したい」「第2の家庭」と言える家庭的で暖かいホームに取り組んでいきます。

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成23年12月26日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

武岡団地のほぼ中央に位置し、病院・学校・スーパーや公園なども近くにあり、買い物や散歩など日常生活の中で無理なく、地域とふれあいながら生活できる環境にあるグループホームである。
法人は他にも、医療機関・福祉施設・居宅介護事業所・ディサービス・訪問介護・訪問看護・グループホーム・ケアハウスなどを運営しており、長年、地域の医療と福祉を担っている。バックアップ体制も充実しており、同法人のグループホーム同志の交流や、協力医療機関や訪問看護ステーションとの連携も確立され、利用者や家族の安心に繋がっている。
毎年実施している満足度アンケートによる家族からの評価が、職員の励みや自己反省に繋がり、ケアの振り返りの機会となっている。
立地条件の良い環境を活かし、更に地域と密着したグループホーム運営への取り組みに意欲が伺われる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念について職場内に掲示をし各自確認を共有し実践につなげている。スタッフ会議時理念に基づいた支援が実践できるように取り組んでいる。	地域密着型サービスとしての意義を踏まえた理念を作成している。スタッフ会議等で理念を確認することもあり、理念の共有と実践につなげている。理念は玄関、台所、事務所に掲示してパンフレットにも明記している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域文化祭の作品出品や行事などは積極的に参加し近隣公園の散歩、スーパーへの買い物時地域の方々と挨拶を交わし日常的に交流に努めている。	地域の一員として町内会に加入して、回覧板などで地域の情報を得たりしている。また、地域の運動会見学や文化祭には作品を出展するなどして積極的に交流に努めている。日常の散歩や買い物など生活の中で無理のない交流をしている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	街の中心的環境の利点もあり地域の方が見学や、介護相談などを随時受け付けている。又すこやか健康祭りで「認知症に寄り添う」相談・講習会で支援を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動状況や利用者の状況外部評価結果を報告し家族や第三者の意見を聴いて話し合った意見を参考にしサービス向上に活かしている。	運営推進会議は2カ月に1回定期的に開催している。ホームの状況報告やヒヤリハット報告、事例検討などが話し合われている。次回の避難訓練は運営推進会議のメンバーにも参加をもらう予定である。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市町村窓口担当、地域包括支援センターの職員と情報交換を行いながら助言を頂いている。介護相談員の派遣受け入れにて利用者さんの質の向上に繋げるようにしている。	日頃より連携を図り、協力関係を築くように努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	安全対策委員会からの情報等で勉強会や外部研修会に参加し、共通認識を図り身体拘束をしないケアに取り組んでいる。日中は施錠はしていないが交通量が多い場所の安全面を考えて、帰宅願望が著しい場合は、必要に応じて施錠はさせていただいている。	日々の生活においてリスクを伴うことを職員全員で話し合い、拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。ホームは幹線道路沿いにあり、帰宅願望の強い利用者の安全面を考慮して、家族に同意を得て玄関に施錠することもあるが、外出の察知をして職員が着いて行くなど閉塞感のない生活が送れるように対処している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は、高齢者虐待防止法など研修は積極的に参加し具体的な行為等勉強して、職員は周知しケアに努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	法人内で研修など行い資料を基にスタッフ会議など共通理解を深めるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	利用案内説明書や重要事項説明書により家族へ説明を行い同意を得ている。又不安や疑問について十分な説明を行い理解、納得を図っています。退所後についても相談、援助を行う旨説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	介護相談員の受け入れを行っており利用者の意見を聞き運営の参考にしている。利用者の相談や意見を聞く機会も設けておりご家族の面会時相談に応じている。玄関に意見箱も準備してある。	面会時や電話連絡の際に、管理者・計画作成担当者が家族から意見や要望を聞き出すようにしている。また、重要事項説明書に法人の苦情受付者も明記されている。満足度アンケートを毎年実施しており、意見・要望を表せるように工夫している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	申し送りやスタッフ会議など意見や要望を聞き、ブロック会議や運営会議にて提案している。	毎朝夕の申し送りで職員は情報の共有を徹底している。また、毎月のスタッフ会議で意見交換や話し合いを行っている。レベルアップに向けた資格取得の支援も行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員個々の状況を把握に努めて、労働時間等働きやすい職場環境を考慮している。資格取得や勤務実績に向けた支援を行い、取得後は本人の意向を尊重し活かしてもらっている。「法人内でのアンケート調査あり」		

鹿児島県 グループホーム武岡5丁目

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内でも研修の機会があり殆どどの職員が研修に参加できる機会があり研修受講者は研修内容について、スタッフ会議等で報告勉強し専門的知識を養う。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム熊毛支部連絡協議会の研修や、同法人グループホームとのケア現場研修にて交流を図り質の向上に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の施設見学や面談で生活状況を十分把握するように努め、心身の状態や本人の思いに向き合い、不安がないように努力し信頼関係に作りに努める。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が求めていることを理解し、事業所としてはどのような対応ができるか、十分話し合い安心していただけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時困っていること、不安なことに対して、できることはすぐに対応するが、困難なことは必要に応じて他のサービス機関につなげている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援する側、支援される側という意識を持たず、お互い一緒に生活している。人生の先輩ある方から学ぶこともありホームでの生活の場を共に支えあう関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との連絡は事あることにしている。家族がいちばんであり面会などは来てほしい。家族と一緒に本人を支える関係作りを築くように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族との外出や面会(、知人、親戚など)いつでも機会を持って頂くように常にお願いはしています。面会がない時はこちらからの連絡を取らせてもらうこともある。	美容室や衣類購入のための買い物など、これまでの生活を維持できるように外出支援を行っている。また、友人知人が訪ねやすいようになじみの人や場との関係継続の支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自由に互いの居室を訪問したり談話できる環境作り。コミュニケーションが苦手な方は、職員が介して交わえるようにする。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了した後も訪問したり必要があれば側面からの相談支援を行っている。他の事業所に入居された方からもハガキを貰ったりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々のかかわりの中で声をかけ把握に努めている。会話や行動表情などから思いに気づき、本人の気持ちに考慮して困難な場合ご家族の力を得ながらケアの方向性を検討する	会話の中から思いや意向を把握し、困難な場合は表情、言動、家族や関係者からの情報などから本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	介護支援専門員、家族や知人などから情報を得て本人との話の中で情報を得、本人全体の把握に努めケアに反映させている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全員が利用者の生活リズムを理解するとともに情報を共有し努めている。本人の出来る力、解る力の発見していくことにも努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人家族の意向が実生活で満足できているか家族訪問時には、現状報告を行なっている。ニーズの変化等関係者の意見を取り入れて介護計画に反映させている。	介護計画は本人や家族の意向をもとに作成されている。特技や入居前からの生活習慣（日記・新聞・読書など）の継続、本人の楽しみに繋がるような支援内容など利用者本位の介護計画を作成している。毎月、モニタリングを行い修正の必要性を確認している。変化がなくても定期的に見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、食事・排泄等身体状況及び日々の暮らしの様子や本人の言葉、エピソード等を記録している。いつでも全スタッフが確認できている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じて通院や送迎等必要な支援は柔軟に対応しそれぞれ満足できるように支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して地域で暮らせるように警察、消防等協力支援体制を取っている。地域の行事（運動会、校区文化祭）など参加している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族が希望するかかりつけ医になっている。専門医受診時も紹介状や連携を取りながら、適切な医療を受けている。	本人や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。また、訪問看護ステーションとの契約により利用者の健康管理が密に行われている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>訪問看護ステーションと契約をし、週1回の健康管理、異常時や必要な時は随時相談できる体制を整えている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時には入院目的を短期間に達成しスムーズに退院ができるように退院計画を病院関係者と、本人家族と話し合い必要な支援を行なっている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入所時重度化した場合終末期のあり方について説明している入院加療後重度化したケースでは、ホームでの介護が可能か又今後の対応について、主治医、家族、職員が話し合い方針を決めて対応している。</p>	<p>入居時にホームの方針を説明している。また、重度化した場合は再度家族と方向性を話し合い、ホームができる最大限の支援に取り組んでいる。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>職員全員で勉強会や救命士による訓練を行ない、急変や事故発生時に応じた応急手当や初期対応が出来るように備えている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回消防署と連携を図り事業所内の訓練は行っている。災害マップにより避難場所等周知勉強中。地域住民の参加協力を得た避難訓練は行えていないが働きかけはしている。</p>	<p>定期的に避難訓練を行っている。スプリンクラーも設置されており、近隣には協力についてのお願いをしている。次回の避難訓練は運営推進会議後に行う予定で参加者からの意見などを聞く機会ととらえている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩である事を常に頭に置き一人ひとりの人格を尊重し誇りやプライバシーを損ねないように言葉掛けを会議や日々の関わりの中で職員同士が、注意し徹底を図るようにしている。本人のプライバシーに、関することは個人情報保護法の理解をし秘密保持を図っている。	生活歴や職歴などを把握して、個々に応じた声かけや否定的な会話にならないように配慮しながら対応している。日々の業務の中で気づいたときにその都度注意を促して、職員の資質の向上に取り組んでいる。プライバシーや接遇についての研修も定期的に行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望が表れやすいような日々のケア、関係づくりに努め誇りやプライバシーをそこねないような言葉掛けを実践している。意思表示の困難な方には自己決定が出来るような声かけ、働きかけに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的に一日の流れは持っているがその日の状態や希望を出来るだけ取り入れている。利用者個々に応じた生活を見守りながら過ごしてもらうように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	定期的に訪問理美容に来てもらいそれぞれ個性に合わせたヘアスタイルにしてもらっている。髪染めをされる方は家族が定期的に連れて行かれる。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮ムキなどのお手伝いをして頂き食後、ご自分のものは片つけられた後職員が大変と言われながら手伝って下さる。	個々の力量に応じて職員と共に行い、ときには調理方法などアドバイスをもらうこともある。本人の希望による個別の外出支援や全員で出かけられる外出、またお弁当持参の花見なども楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の内容を記録し、又個別の摂取量や好き嫌いを把握している。栄養士の専門的アドバイスももらっている。水分量は摂取量を把握しており、少ない利用者には御茶以外に好みの飲み物で摂ってもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きの声かけを行い、能力に応じて職員が見守り、介助を行っている。就寝前は義歯の洗浄を行い、週1回消毒を行っている。定期的に訪問歯科の検診、指導をもらっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	安易に紙パンツ等使用せず、排泄意識を持てるようにトイレでの排泄を支援している。夜間熟睡度によりパットを使用する場合がある。	夜間のみポータブルトイレを使用する利用者もいるが、日中はトイレでの排せつを支援している。自立している利用者もあり、継続できるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	味噌汁の野菜具沢山にしたり、十分飲水働きかけることで自然排便ができるように取り組んでいる。必要な方には、医療機関の支持のもと緩下剤調整している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	曜日、時間は一応決めているが体調、要望、希望に合わせた入浴ができている。入浴を拒む方に対しては言葉掛けや対応の工夫、その方に合わせた入浴支援を行っている。	希望があれば毎日の入浴も可能で個々に応じた入浴の支援を行っている。法人のデイサービスの温泉を利用することもあり、入浴を楽しむことが出来るように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の状態や希望で不安なく眠れる空間を整えている。いつでも好きな時間に休息してもらっている。レクリエーションの時間は自由に参加してもらい、中を活動的に過ごしてもらうように工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬説明をケース記録にファイルしいつでも見られるようにしている。疾病の症状や薬の一覧表等確認できるようにしている。内容変更時には引継ぎノートに記録し各自確認をしスタッフ間で確実に共有できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえるようお願いできそうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている。それぞれの経験や知恵を発揮できる場面を作り楽しみや自信につなげる様支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天気、本人の体調、希望に応じて、季節を肌で感じてもらい、心身の活性につながるように毎日の散歩、買い物をしている。外食、お弁当を持って戸外に出かけている。又車で物産館に出かけ季節の野菜を買いに行っている。	日常的には買い物、散歩などに出かけている。また、季節の花見やぶどう狩り、水族館見学、外食や地域行事の見学、除夜の鐘つきなどにも出かけて外出を楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>家族相談の中、小額を手元にもっている方もいるが得に、お金を使うことはない必要な時は一緒に出掛けお金を使うときは立替払いを行っている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>利用者の希望に応じて適宜日常的に電話は行っている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人の希望や生活歴を考慮しながら本人の思い出の品物。写真や手作り作品、季節の花を飾ったりしている。</p>	<p>共用空間は明るく、季節感も取り入れられており家庭的である。思い思いの居場所を確保できるスペースも工夫されている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>殆んど1階のホールに居ることが多く入居者の方、スタッフと会話をすることが多い。ゆっくりしたい方はいつでも部屋に行ってもらっている。様子を見ながら声を掛けている。その時々で会ったテーブル配置、席移動などで場所の工夫をしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人が自宅で使用していた家具なじみの物を持ってきていただき、家族の写真や装飾等居心地良く過ごせるようにしている。</p>	<p>入居の際に使い慣れたものや、なじみの物品を持ち込んでもらえるように家族に説明している。タンスや仏壇、パイプハンガーや椅子、家族の写真やお気に入りの飾り物などが持ち込まれ居心地良く過ごせるように工夫されている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>一人ひとりの理解力に応じてトイレ表示、居室に絵付き写真に名前を表示して、混乱なく生活が送れるように支援している。個々の身体能力が活かせる居室配置を適正に行い、安全に自立できる生活環境を考慮している。</p>	/	/

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない